

## 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290400397		
法人名	株式会社ONE ALPHA		
事業所名	グループホームぽかぽか		
所在地	千葉市若葉区大宮町3099-1		
自己評価作成日	令和6年11月25日	評価結果市町村受理日	令和7年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www kaigokensaku.ip/12/index.php">http://www kaigokensaku.ip/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号
訪問調査日	令和6年12月10日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・R5年9月より事業承継にて法人変更を行い、グループホームぽかぽかとしてスタートを切った弊社は、『地域に根差し、地域に支えられ、共に歩みながら暮らしていく』という法人理念の基、地域や社会との関わりが途切れないように配慮し、ご入居者やご家族、地域の方々、同業他社の事業所と共に、支え・支えられながら開かれたホーム運営に努めている。・スタッフとは定期的な面談や日々の対話を大切にし、自身の目標や課題を上長と確認しながら、キャリアアップ制度において向上・自己研鑽に励んでいる。・コロナウイルス感染の5類移行を踏まえ、徐々に外出や外食を再開しており、日々の生活の中で楽しみを持って暮らせる環境の整備に努めている。また、季節感が感じられるようホーム内での行事も行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の良い点として①認知症が進行しても「自らの意思で自由に生活する」をモットーに入居者は朝の洋服選びや、調理・掃除の手伝い、日々の散歩や買い物、晩酌にノンアルビール、自宅にミカンの収穫に行くなど利用者本位の支援が実践されている。②職員は常に利用者に声をかけ、思いを汲みとり、職員同士も話し合い情報共有を徹底し支援している。③意見・提案が言いやすく、特定技能実習性を含め職員同士協力して取り組む体制と働きやすい職場環境により明るいホームである。④近隣自治会と日ごろの見守り支援や災害時の協力体制があるなど地域に根差した施設づくりが行われている。⑤医療機関や家族と力を合わせ、看取りにも取り組むなど、その方の人生の最後まで寄り添う支援に努め、家族アンケートでは感謝の言葉が溢れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	<input type="radio"/> 1. 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	<input type="radio"/> 1. 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	<input type="radio"/> 1. 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	<input type="radio"/> 1. 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	<input type="radio"/> 1. 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	<input type="radio"/> 1. 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域に根差し、地域に支えられ、共に歩みながら暮らしていく』の法人理念の基、理念を掘り下げて考える研修を行ったり、職員が日々のケアの中で、理念を意識した実践が出来るよう努めている	「利用者の立場に立った、介護サービスの提供」を理念に定め、職員は認知症高齢者を理解し、利用者一人ひとりの尊厳が大切にされているか、また理念に沿ったケアが提供されているかをミーティング等で話し合い、理念の共有化に努めている。	法人理念の基に職員同士で話し合い、グループホーム独自の理念が望まれる。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、地域の避難所開設訓練に参加したり、防災協定の締結に向けて相談・連携を図っている。近隣のスーパー・コンビニ、個人商店への買い物・外出等を行っており、地域との繋がりが持てるよう取り組んでいる	自治会に常日頃の見守りや災害時の協力体制をお願いし、入居者と地域のバザーに参加するなど活発な交流が行われている。近隣のスーパー・個人商店へ買い物に行き挨拶を交わし、民生委員の方が運営推進会議に参加するなど、地域に開かれた施設づくりが実践されている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と合同でAED講習会を開催し、ご入居者の生活の様子を診てもらう機会を設けた。認知症に対する理解・普及を目指し、次年度以降でご家族・地域の方向けの認知症講座の開催を検討している		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、民生委員、市内GHの代表らに定期的に参加して頂き、2か月に一度、取り組み状況報告資料や、ご入居者の様子を報告し、貴重な意見をホーム運営に反映出来るよう努めている	運営推進会議は、入居者、地域包括支援センター職員、民生委員、他グループホーム代表等の参加を得、定期的に開催されている。入居者の状況や主な活動、事故等の報告等を議題として取り上げ、参加者から他のGHの取り組み等のアドバイスを得て運営に活かしている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの生活支援コーディネーターから社会資源やご入居者が参加出来そうな行事やボランティアなどを繋いでもらったり、ホーム内でクラスター発生時は、抗原検査キットの支援協力を受ける等、随時相談・連携を図っている	管理者は、日ごろから市役所の高齢者支援課とは、密に連絡を取り報告や相談を行っている。クラスター発生時はアドバイスや抗原検査キットの提供等の支援を頂き、地域包括支援センターとは入居相談や地域ボランティアの紹介など双方向の関係性が築かれている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を周知。三ヵ月に一回の会議の開催、年度内に2回の研修を行っている。また、委員会の議事録、研修資料はファイリングしたものを玄関に置き、誰でも閲覧可能にしてある	身体拘束ゼロを目指して常に職員同士で話し合い代替案を考えている。園内研修では具体的な行為やネグレクトについて動画で学び、職員間で認識を深め、ヒヤリ・ハットを奨励し、気づきにくい身体拘束や言葉による抑止防止等を共有し、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修にて学ぶ機会を設けたり、職員へ周知、起きた事故や気になることが話し合える機会を継続して持っている。管理者は定期的に職員との面談をもち、どういう所に自身が苛立ちを感じやすいのかについて話ができる環境整備に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束廃止委員会を設置し、三ヵ月に一回の会議の開催、年度内に研修を開催する他に、特定技能実習生を含め、話し合う機会を継続的に持ち、周知に努めている。職員も後見人がついている方への対応から学ぶ機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居見学・相談受付や契約時を中心に、具体的に入居されてからのイメージが持てるよう、丁寧に時間を掛け行っている。それら以外にもご入居者の状態変化等があれば、都度ご家族と連絡を取っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者からは常日頃、ご家族からは面会時や連絡時、3か月毎のケアプラン説明等で意見・要望を伺い、運営に反映させている。LINEで繋がっているご家族には、オンラインに近い形で情報共有や行事の写真の送付を行っている	利用者の意向は日々のケアの中で日常的に汲み取ることに努め、家族意見は来訪時や日々の様子をLINEやショートメールで伝え、意見・要望を聞き取り運営に反映させている。利用者アンケート「家族の困っていること等の話を聞いてくれるか」の設問では全ての家族が「聞いてくれる」と回答している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは、就業時や月1回の会議やカンファレンス、OJT面談等代表や管理者、人事部課長等を中心に多角的な目線で意見に耳を傾け、運営に反映する様に努めている。	管理者・人事課長は日常的に職員と会話を交わし、ホーム会議や個別面接等で、職員からの意見や要望を吸い上げ、運営に反映するようにしている。意見や提案が言いやすく、特定技能実習生も含め職員間で常に話し合うチームワークの良い職場環境により明るいホームである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談を実施。会社の基準に沿って昇給・昇格等のキャリアアップを行っている。また、職員自身の得意なこと・好きなことを活かせるよう、それぞれに合わせた業務の割り振りをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のOJT研修だけでなく、現場での実践を通して、習熟度に合わせ研修や勉強会等を実施している。また、自主的に学ぶ姿勢を大切にし、外部研修や他社との交換研修を通じ、継続的・積極的に学ぶ機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内でGHを運営している他社と協力関係が出来ており、運営推進会議の交互参加や、勉強会、相互訪問(交換研修)等の活動を通じて、お互いにサービスの質を向上が図れるよう努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク面接時に、ご本人(ご家族)から困っている事、どのような生活を望んでいるか等を伺い、適切にニーズを抽出できるように努めている。また、入居後も早期に信頼関係を構築し不安の解消に努められるよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学相談受付対応、ケアプラン説明等、ご本人の状況だけでなく、ご家族が心配なこと・負担に感じていることも話してもらえるよう、話に耳を傾ける姿勢を大切にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来られた方の話を伺い、ぽかぽかやGHの対象とはズレがあると感じた際には、その方にあった場所(リハビリ施設ができる施設・小規模多機能・重度対応の施設など)の提案と、連携(ご紹介)をさせていただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護=身体介護、認知症=できないことが多いという『オールドカルチャー』なイメージにならないよう、研修や会議等で話し合い、認知症になっても自身で出来ることを大切にし、共に生活を創りあげられるように支援を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出、外部受診。携帯電話を使える方がご家族と連絡をとれるように支援し、必ずしも職員が入居者の不安に対しての対応を一手に引き受けることで解決しようとする方法をとっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者が知人と連絡を取ったり、外出等が出来るように間を取り持ったり、手紙のやりとり等の支援をしている。また、住み慣れた自宅やご家族宅への外出・外泊等を通して、馴染みの関係が途切れないような支援に努めている	奥様との手紙のやり取りや友人と携帯電話での会話、ご家族や友人・知人の来訪は時間を気にせずゆっくりと過ごして頂いている。職員と自宅を見に行かれ、庭の作物を収穫し、友人との外出など自由な時間を過ごしている。ホームで正月の外出・外泊計画を取りまとめる等の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティ、家事活動、季節行事で、ご入居者同士の交流が深まるように支援している。ご入居者同士で声を掛け合い、出来ることを組み合わせて職員、ご入居者が一緒に食事の片付け等ができるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内には入居仲介部門もあり、退去された方の退去先の施設選定のサポートや退居後の施設を訪問する等、その後の情報交換、必要があれば随時相談にのれるような体制を作っている		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話からご本人の想いや意向が伺えた時には記録に残し、介護者よがりのケアにならないよう十分に注意している。ご入居者自身がどう思うのか、何をしたいと思っているのかの視点で考えるよう話をしている	利用者との日々の関りの中で、気づいたことを職員間で話し合い、調理の手伝いや盛り付けなど利用者にあった役割を見つけている。思いを言葉に表すことが困難な利用者に対しても職員は、質問の仕方を変えてみながら話しかけ、様子を観察し要望を読み取り利用者の満足に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居審査時にご本人からお話を伺うと共に、ご家族から入居時に生活歴、暮らしているお部屋の環境、現在の習慣や暮らし方について書類(センター方式)を記入して頂き、これまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ipadでの経過記録や、業務日誌、申し送りノートを通して日々の行動や変化をチームで情報共有出来るよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人との日々の関わりの中から希望を伺い、ケアプランに反映できるように努めている。会議(カンファレンス)の時間を通してチームでケアプラン内容を検討。また、ご家族へのケアプラン説明を3ヶ月に1度面談で行ない、ご家族の意見も反映している	引き継ぎ時やカンファレンスで、利用者のケア内容や対応を話し合い、課題となった案件はノートに記録し、介護計画に反映させている。介護支援専門員はモニタリングや定期的に開催されるサービス担当者会議で提案された医師・看護師や職員の意見を取り入れ、介護計画の作成にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をipadでの経過記録や申し送りノートに記入したり、食事量や排泄、バイタルについても表に記入し、チーム内での情報共有やケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向や家族の状況により、希望された医療機関への外部受診を行ったり、その方の身体状況に合わせた福祉用具の自費利用、身元保証会社との連携等、柔軟な対応をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや100円ショップに出掛け、自分の欲しいものの買い物を実施している。また、地域包括支援センターや民生委員より紹介を受け、夏休みに和太鼓練習を行う小学生に発表の場を提供できるよう、夏祭りに招待し演奏会を行ってもらったり、ホーム周辺の地域で活動されているボランティアの受け入れを積極的に行う等、取り組みに力を入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医が月2回来訪。虫歯や義歯の調整等必要があれば、随時訪問歯科医が来所し治療を受けることが出来る。日々の様子を医師や関係機関に的確に伝え、ごその結果をご家族に報告している	月2回の訪問診療により平時の健康管理が行われており、状態変化時や急変時には24時間の連携体制も構築されている。必要時には専門医への受診同行や医療関係者への情報提供も適切に行われているため、利用者及び家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に異変があれば、提携している訪問看護ステーションの看護師に、いつでも相談出来る環境が整備されている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は訪問診療医と連携し、紹介状を含めた情報提供をしている。入院中、退院前はなるべくお見舞いに伺うと共に、ご家族から医師の話を聞き、退院カンファレンスには極力参加させていただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に具体的に重度化した場合についてや、【重度化看取り指針】を基に、終末期のあり方について説明している。また、この先重度化が予測出来る変化がみられる場合は、ご本人、ご家族にとって最良の方法がどれよう主治医を含め、話し合いの場を持ち、支援している	「重度化看取り指針」を備え、入居の際には本人及び家族の意向を確認しながら丁寧な説明を行っている。看取りに向けては、主治医や看護師を含めたチームで話し合いを行いながら細やかな支援が提供されており、家族からも感謝の声が聞かれている。	看取り介護を終えた後には、自分たちのできたことや今後の課題などを話合う機会を持つことが望まれる。このことは、質の向上はもちろんのこと新人職員のメンタルケアの側面もあるため確実な実施を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	急変や事故の際の対応や一連の流れを目に付きやすいところに掲示。年に2回の避難訓練で応急対応について学ぶ機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震火災総合訓練等の避難訓練を年2回実施し、災害時の誘導等、迅速な避難が出来るよう努めている	年2回の防災訓練においては、初期消火、通報、避難誘導の総合訓練を実施している。自治体が開催する地域の避難所開設訓練にも参加し、災害時には地域住民に避難誘導後の見守り協力をしてもらう等の防災協定の締結も進められており万全を期している。	防災訓練時は、出火場所を台所のみならず居室のコンセント火災を想定するなどバリエーションの工夫を検討されたい。また、整備されたBCP(事業継続計画)は、繰り返し職員への説明を行うことにも期待をしたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時のプライバシーを守る関り方をはじめ、お声掛け等はご本人やご家族に確認して行なっている。会議や研修等にて日々のケアの振り返りを行っている	入浴及び排泄時には、介助の際だけでなく声かけについてもプライバシーを守ることに特段の配慮を行っている。一人ひとりの尊重についても、洋服や飲物を選ぶ等の日常的な場面で自己決定ができるように支援することを心がけており、利用者本位に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状が進行した方でも、生活の中に選択肢を提示し、なるべく自己決定が出来る機会を作れるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入床時間、入浴等、個々のペースに合わせている。一人ひとりのアセスメントを通してケアプランに活かし、その方らしい暮らしを送ってもらえるよう、日々実践している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の化粧をする機会を大切にしたり、今までの生活で使用していた化粧水、クリームをこだわりで使っておられる方、浴後やその日の洋服を選んでいただく等、支援している。また、希望により訪問美容(カット・カラー等)が利用出来るようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に、キッチンで調理や盛り付け、片づけ等を行っている。また、外食レク、イベントの食事の計画をご入居者の意向を聞いて計画している	キッチンカウンターは利用者が使うことを考慮し低めに設定されており、職員とともに配膳や片付けが行われている。メニューも利用者の希望を取り入れながら中華のテイクアウトを利用したり、ピザやいなり寿司を手作りするなど楽しむための工夫が凝らされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状態に応じて食事量を調整したり、必要に応じて腎臓食、アレルギー食等、個別にご飯を提供している。水分量は1日を通して確保できるよう、スポーツドリンクや本人の嗜好に合わせ工夫し、提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の習慣となるようお声掛けを行い、必要な方には手助けをし口腔ケアの支援を行っている。必要に応じ、歯科診療を受けるようにして口腔内の観察を行っている	7/10	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムやパターンを把握し、誘導やお声掛け、排便の確認等、個々に合わせて支援している	排泄時の導線や動作等の安全面に配慮しながらできる限りトイレでの排泄ができるよう支援が行われている。個々の排泄パターンの把握には、全職員が細かな声かけと観察を行い、使用する下着や紙パンツ、パットにおいても個別性の高い選択が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	麦ごはん・牛乳・寒天等を積極的に取り入れたり、ホームの外周の散歩や、希望がある方には乳酸菌飲料等が購入出来るよう対応し、日々の運動や水分摂取をすすめている。便の形状等を訪問看護師、訪問診療医へ随時相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまはずに、個々にそった支援をしている	2~3日に1回は入浴できるようお誘いし、それに同意をいただく形になっている。入浴剤や脱衣室で音楽をかける等、気持ちよく入浴でもらえる雰囲気作りを大切にしている	ヒートショックや入浴時の転倒等の安全対策を徹底し、皮膚の観察や入浴後の保湿ケアについても細やかに実施されている。入浴時間、湯の温度、洗身の順序等の利用者一人ひとりのこだわりにも柔軟に対応することで、入浴を楽しむための支援につながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間についてはこちらで指定するのではなく、ご自身の休みたい時間に休まれている。夜間の良眠につながるべく、日中の活動を支援している。また昼寝等の休息も個々のペースに合わせて行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	運営母体である調剤薬局の管理薬剤師とは常に連携が図れる体制を構築出来ており、薬剤情報はファイリングし、スタッフ間で情報共有している。服薬支援方法を貼りだし、薬の与薬時の名前の確認や飲み込みの確認等を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族同意の下、アルコールを飲める機会や、買い物の機会を作っている。生活リハビリとして、これまでの生活に沿った家事が出来るよう支援したり、ガーデニング等の趣味についても可能な限り継続できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に岡かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴や散歩、ドライブに行っている。季節を感じられるような計画を立て、施設内での夏祭りの開催、スイカ割り、バーベキュー等の対応を行っている	自力歩行の方も車椅子利用の方も天気の良い日には、おやつ前の時間に敷地内の散歩が日常的に行われている。その他、近隣のスーパー やサロンに出かけたり、園芸に精を出したりと利用者の意向を聞きながら、様々な形での外出支援が実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により自分で財布を持っている方もいる。また、それ以外の方もホームで立て替えている事を伝え、買い物の際に自身で支払いをされている方もいる。ホームの買い物に出掛けた際も、ご入居者に支払いをお願いする事で、お金に触れる機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込んで利用されている方がおられる他、電話がしたいと希望がある際には、状況に応じ、こちらから相手に今の様子を伝えた上で取り繕いでいる。手紙や年賀状でのやり取りを継続されている方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはエアコン、空気清浄機が設置してある。廊下やリビングは装飾やイベント時の写真等展示し、季節感を出すよう支援している。	職員がこまめに換気を行い、温度、湿度管理が徹底され、清掃の行き届いた環境が整っている。利用者と職員が作成した季節にちなんだ創作品やイベント時の写真が壁一面を飾っており、皆の目を楽しませ話題の提供にもつながり、心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファーを設置し、常に人の目があるところで過ごす環境と感じないように配慮。また、それぞれの居室でひとり、あるいは仲の良い方同士等で過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学の段階で使い慣れたものを持ち込んでいる方の部屋を見ていただき。イメージが持ちやすいよう支援。入居後にも都度本人の希望や家族と相談をしながらレイアウトや物の変更を行っている	本人が使い慣れたものやこだわりの品に関しては持ち込んでもらい、本人及び家族と職員が話し合いながら、その人らしい空間となるよう居室のレイアウトが行われている。どの部屋もみな雰囲気が異なっており、自分の好きな物に囲まれてゆったりと過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室には表札、トイレもマークを含めた表記でわかりやすくし、本人から見える目の高さなども意識して表示している		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームぽかぽか

作成日: 令和 6 年 1 月 4 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かつたり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人理念とホームの理念が一つになっている各ユニット毎の目標を作り、実際に日々のケアを行うスタッフ自身が馴染みのあり、理念を基に仕事に当たる事が出来る環境を創る必要がある	・法人理念を基に、ユニット毎にスタッフと話し合いの場を設け、【理念を基に、私達はどういうケアを行っていきたいか】の目標を立て、それを大切に日々のケアを行っていくよう取り組んでいく	・各ユニット毎に【理念を基に、私達はどういうケアを行っていきたいか】を話し合う場を設け、それぞれのユニットで目標(ミッション)を掲げ、それを基に日々のケアを行っていける環境を創っていく	1 ヶ月
2	33	【重度化看取り指針】を基に、看取りケアを行っているが、実際にご入居者様をお看取りした後の振り返りの時間を取り事が出来ていない	・看取りケアを終えて、自分達に出来た事や今後の課題等を振り返り、話し合う場を設ける ・ターミナルケアの研修を定期的に開催し、学びを深める機会を継続的に創設していく	・自分達が行ってきた看取りケアを客観的に見つめ直し、振り返る機会を設ける事で、ホームとしての看取りケアの質の向上を図ると共に、新人スタッフのメンタルケア等を考える機会を創る ・法人内での内部研修の中で、ターミナルケアについて学びを深める機会を継続的に設け、質の向上や知識・技術のアップデートを図っていく	6 ヶ月
3	35	定期的に開催している防災訓練において、出火場所がどちらかのユニットのキッチンになっており、バリエーションがない。また、スタッフのBCPに対する理解を深めていく必要がある	・防災訓練の中で、火災の火元をキッチンに限らずコンセント火災や寝たばこによる失火等、設定にバリエーションを持たせ、様々な環境下でのリスクヘッジを行っていく ・現状で作成・制定しているBCPに満足せず、スタッフへの理解を深めながら、常に見直しと改善を重ねていく	・年2回の防災訓練の中で、火災の火元にバリエーションを持たせた設定を行い、どんな状況で出火しても対応出来るような訓練を重ねていく ・BCPに対する理解を深めていく為にも、継続的な内部研修の機会を設け、災害時にご入居者様やスタッフが迅速に対応出来るよう、検討・修正を重ねていく	12 ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。